

紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

7



教職大学院での学びをつなげて広げる

教職実践研究交流会 in 2018

平成30年8月4日の午後、第3回教職実践研究交流会を実施しました。本学の教職大学院では、県派遣の現職教員に対して短期履修学生制度を導入しています。昨年度は12名が、この制度を活用して修了しました。そして、修了後に、教育の実践的探究を継続していくための一つの契機として、フォローアップ・プログラムを行っています。8月に開催される教職実践研究交流会は、そのフォローアップ・プログラムの一環として修了生が発表いたします。



開会式

本年度は「修了生の『学び続ける教員』としての姿を求めて」をテーマとして、6名の修了生が以下のタイトルで発表しました。

- 教職大学院における学びと学校改善との関連性
- 小学校国語科における「書くこと」の指導の在り方Ⅱ
—読み書き関連指導を通して—
- 主体的な家庭学習定着のための学校からのアプローチ
- 道徳科における「問題解決的な学習」に関する実践からの一考察
- 通級指導教室と校内連携
- 児童一人一人が安心して過ごせる学級づくり



分科会

修了生のフォローアップ報告に加え、現在、多くの学校で課題となっている「道徳科における支援の必要な子どもへの指導」と「英語の教科化に向けて」という2つのテーマによるラウンドテーブル形式での検討会を実施しました。参加者相互に聴き合い、語り合う中で、上記テーマにおける教育実践について共に探究する姿が大変印象的でした。皆さんも、教職大学院での学びを、ご自身の教育実践をより深めたり広げたりしていく機会にしてみませんか。



ラウンドテーブル

教職大学院の学修内容や院生生活について担当教員や現役院生が詳しく説明します。個別相談の時間も設けられており、知りたかったことがすべて分かる絶好の機会です。奮ってご参加ください!

大学院説明会

<第2回大学院説明会> 日時：2018年11月17日(土)午後

<第3回大学院説明会> 日時：2019年2月2日(土)午後・・・事前申込による個別相談会

大学院入試日程

<B日程> 出願期間：2019年1月4日(金)～11日(金) 学力検査日：同年1月26日(土)

<C日程> 出願期間：2019年2月8日(金)～15日(金) 学力検査日：同年3月2日(土)

「学生募集要項(修士課程)(専門職学位課程)」は、学務係で配布しています。入試の詳細については「学生募集要項」をご確認ください。大学院 HP (<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~kyoshoku/>) でもご案内しております。あわせてご覧ください。

今後の 大学院説明会・ 大学院入試日程 のご案内

教職大学院での 価値ある学び

岡山県浅口市立六条院小学校
(平成 29 年度特別支援教育
コーディネーターコース修了)

西森 翼

「教職大学院での経験が、長い教職人生の転機となった。」振り返ったときにそう言えると思います。はじめは、誰にも大学院での新たな学びに期待とあわせて不安や戸惑いも少なからずあるかも知れません。

香川大学教職大学院での学びは、私にとって大学の先生から専門的な知識や新たな視点を学んだり、他県の先生や校種の異なる仲間と共に学んだりする魅力がありました。また、一般の大学生とは違い、ある程度現場で実践を重ねてからの学びですから、理論とこれまでの実践とを重ね合わせることができました。さらに、病院やリハビリ施設、通級指導教室等での多様な実習は、教職大学院だからこそその貴重な経験です。

現在、私は通級指導教室の担当をしています。特別支援教育を専門的に学び、子どもの見方や指導方法を見つめなおす機会となりました。今後の教職人生にとって価値のある学びであったことは間違いありません。

在学中の1年間は、自分が今までに行ってきた教育活動の振り返りと、これからの自分の教師としての目標を考える期間となりました。現場における校務の分掌、授業準備、部活動指導等、多くの仕事に追われていたように思います。忙しさのあまり、「よい」と思っていたことでも、「なぜよいのか」という根拠まで考えることができていませんでした。教職大学院の授業を受ける中で、教育理論、心理学、特別支援教育、学校経営等の視点から、自分が実践してきた教育活動を振り返り、それぞれの根拠となる理論を学ぶことができました。

現場に復帰した後も様々な仕事において、理論をもとに実践することで、自信をもって指導することができています。これからの実践を通して、新たな課題に挑戦していきたいと思っています。

教職大学院で学んで

綾川町立綾南中学校

(平成 29 年度授業力開発コース修了)

久保 孝彰

四国道徳ラボのご案内

平成 30 年度も道徳ラボが始まりました。「質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発～「四国道徳ラボ」を核として～」をテーマに取り組んでいます。

6 月には研修会Ⅰを香川大学で 82 名の参加を、7 月には研修会Ⅱを高知大学で 63 名の参加を得て開催しました。今年度は、授業づくりに視点をあてて実施しています。今回は、10月6日(土)の午後に香川大学で開催する予定です。

7 月の「道徳ラボ」講演 →
文部科学省 浅見 哲也 教科調査官
演題「道徳科における指導と評価」



6 月の「道徳ラボ」
実践編「道徳科の実践より」 ↑
チャレンジ編
「校内研でやってみよう
発問づくり」 →



通常の学級での教科学習に

つまずきを示す児童生徒を

支援するための研究を進めます

香川大学教育学部では、文部科学省による平成30年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業（発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業）の委託を受け、教科学習においてつまずきを示す児童生徒に対する通常の学級における指導方法を開発するための研究を進めています。教科としては、理科と算数・数学を対象にしました。その理由は、両科目の学習を支える認知的基盤に共通性が指摘されているからです。

本事業は、教職大学院が中核となって、大学教員と本学教育学部附属学校（高松小、坂出小、高松中、坂出中）教員が連携して取り組んでいます。子どものつまずきには多種多様なパターンがあり、それが学年や児童生徒の発達特性（発達障害などを含む）により多彩なバリエーションを示すことが想定されます。教職大学院では、本事業を端緒として、教科を越えて、教員の専門性を越えて、すべての子どもたちの学びを支えるための研究を進めたいと考えています。

研究の経過や成果については、随時報告していきます。ご期待ください。